



## 「22号室」の秘密 ～スタートから1か月に寄せて～

今から40年ほど前の話です。私は大学1年生で学生寮に入っていました。その寮には、北は北海道から南は鹿児島まで、計47名が同じ屋根の下で生活していました。私の部屋は18号室、隣の17号室に石川(茨城県出身)、19号室に根立(新潟県出身)がいました。私は経済学部経営学科に籍を置いていましたが、22号室の宮本と35号室の益子(共に茨城県出身)も同じ学科でした。同じ学科ということもあり、寮では互いの部屋を行き来していました。そのうち、22号室がたまり場となり、毎晩6名程が集まるようになっていました。佐賀県出身者は自分一人ということもあり、新しくできた仲間と過ごす時間はとても楽しく、22号室にいると時間が経つのも忘れるほどで、22号室はいつも笑顔と笑いに包まれていました。なぜ、みんなが22号室に集まるようになったのかは、住人の宮本の存在が大きかったと思います。みんなが宮本を好きで22号室に集まっていたことは間違いありませんでした。

夏を過ぎたころ、私は、宮本がみんなから愛される理由を17号室の石川にたずねました。「宮本はなぜ、みんなから好かれているのかな・・・？」すると、石川は次のように即答しました。

「だってさあ、あいつ、人のこと絶対悪く言わねえじゃん。」

まさに、目からウロコでした。それと同時に自分自身のことを深く反省しました。確かに、宮本が他人の悪口などを言っているところを見たことも聞いたこともなかったことに気づかされました。また、それに気づいていた石川もスゴイな、と思いました。

それから私は、宮本を見習って、「人のことを悪く言わないようにしよう！」と心掛けるようになりました。が、時々言ってしまっている自分に気づき、今でも反省することがあります。しかし、22号室で同じ時間を過ごした仲間の存在は、その後の自分、今の自分に大きく影響していることは確かです。

寮で過ごしたのは19歳の時。わずか1年間でしたが、今でもたまに(数年に一度)集まると、19歳のあの頃に戻ります。見た目はずいぶん変わりましたが・・・。

新年度がスタートし、間もなく1か月です。子どもたちは様々な経験・体験を通して確実に成長を続けております。子どもたちが困難や課題に直面した時、それを解決するため共に考えることも、子どもの成長に寄り添うことのひとつと考えます。

人間関係の構築は、大人にとっても難しい課題です。ましてや、人生経験の浅い子どもにとってはなおのことです。育ってきた環境も違う、考え方も違う様々な人との関わりや経験、体験を経ながら、人は人として成長するものだと思います。長い人生において中学校の3年間はほんのわずかですが、人間関係づくりの基礎が育つとても大切でとても貴重な時間です。子どもたちは、日々の人間関係の中で悩み、考え、少しずつ成長しています。私たちもまた、その姿から多くを学ばされます。

子どもたち同様、私たち大人も立ち止まりながら、人との関わりを大切にしていきたいものです。

### 校長室より 青春真ただ中のみなさんへ ～多くの失敗・つまずきの体験者より～

人は誰でも、言葉一つで誰かを傷つけてしまうことがあります。反対に、言葉一つで誰かを救うこともできます。中学校で過ごす3年間は、勉強だけでなく、「人との関わり方」を学ぶ、とても大切な時間です。

失敗してもOK! つまずいてもOK! その一つ一つが、これからの人生につながっていくと私は信じます。

新年度がスタートして、もうすぐで1か月です。みなさん、少し飛ばし過ぎてはいませんか? 5月になる前に、いったんスピードをゆるめ、自分の足元と足跡をゆっくり確認することも大事ですよ (^^)/